

上野小が交通安全運動実践優秀賞を受賞
みんなでつかった実践の証を笑顔で報告

「こどもの交通安全大会」が5月17日に飯塚市で行われ、上野小が「交通安全運動実践優秀賞」を受賞しました。小学生が主体となり、教師やPTAと協力して交通安全の確保に取り組んだ小学校を対象に、今年は県で各賞あわせ38校が受賞。今回の表彰を受け、児童会の浦田芽依さんは「今後も分団登校などで、低学年の安全も守っていききたい」と、決意を新たにしていました。



↑「今後も学校全体で交通安全に取り組みたい」と意気込みを語る、児童会のメンバー。

↓開講式には174人が出席。人生の潤い増す、新たな挑戦に期待がふくらみます。



福智町高齢者大学開講式
知識と教養を高める「学びの社交場」

楽しみながら知識や教養を身に付け、喜びと生きがいのある人生を過ごすことを目的とした「福智町高齢者大学」の開講式が、6月7日に地域交流センターで開催されました。本年度は12月までの約半年間、町内に住む50歳以上の220人が週1回の講座を受講。一般教養や13の専門講座のほか、運動、地元小学校への学校訪問、日帰りバス研修などもある充実した内容です。

↓会長を3期務める田中和敏さん。賞状を手に、活動継続へ意欲を見せていました。



福智町青少年育成会議の功績が県から表彰
青少年の健全育成を温かく見守る

少年のバスや少年の主張大会など、青少年の健全育成活動を行っている福智町青少年育成町民会議が、5月30日に福岡市で表彰されました。同団体は夜間補導や水難防止の呼びかけなど様々な活動を実施。会長の田中和敏さんは、「みんなの頑張りが評価されてうれしい。今回の表彰を励みに今後も福智町の青少年の為に尽力したい」と、熱い思いを語っていました。

老人クラブ金田支部ペタンク大会
標めがけ狙い澄ました一投

福智町老人クラブ連合会金田支部主催のペタンク大会が、5月30日に金田駅裏のふれあいイベントパークで開かれました。ペタンクとは6m離れた目標に金属製のボールを投げ合って、相手より近づけることで得点を競う、年齢を問わず楽しめるスポーツ。参加した20チーム75人は、ボールの行方に一喜一憂し、敵味方の区別なく声をかけ合って親善を深めていました。



↑チームメートがかたずをのんで見守る中、写真手前の目標(緑)めがけ緊張の一投。

↓食の大切さを学ぶ体験学習。泥に足を取られ四苦八苦しながらも、元気いっぱいにもち米の苗を植えました。



赤池4保育園合同田植え実習
田植えで学ぶ「食」への感謝

赤池の山崎地区の田んぼで赤池保育所、上野保育所、市場保育所、中尾保育所の年長園児54人が、6月15日に合同でもち米の田植え実習を行いました。創造保育の一環で、「お百姓さんありがとう」のお話を元に、ごっこ遊びを通して食への感謝の気持ちを学ぶ、30年以上続く毎年恒例の行事です。各保育所ごと列に並んだ園児たちは、泥だらけになりながらも楽しそうに苗を植えました。この実習は年間を通した食育体験学習で、田んぼに植えられたもち米は、収穫した後にお正月の鏡餅にする予定です。

第1回ひと・まちにやさしいボランティアセミナー
ボランティアについて学びませんか？

6月1日に金田分館で、ボランティアセミナーが開かれました。第1回の講師には、朗読ボランティアの「青い鳥」を迎え、会長の桑野京子さんが登壇。利用者との心の交流の素晴らしさを感じられる活動報告や朗読体験もあり、参加者は熱心に耳を傾けていました。このセミナーは年5回計画され、次回は8月3日に方城と金田地区の「手話の会」を講師に招きます。



↑まちづくりやボランティアについて学べる絶好の機会、みなさんぜひご参加ください。

↓約170世帯の善意と共に、笑顔で報告する児童会と高橋区長はじめ地元住民6人。



生力地区によるペットボトルキャップ寄贈
市場小に届けられたみんなの善意

生力地区の住民たちが、6月13日に地元で集めたペットボトルキャップを市場小に寄贈しました。市場小では、数年前から環境ボランティア委員会を中心に使用済みのキャップの回収に取り組んでおり、この活動に賛同した生力地区も力になろうと、昨年の8月から収集を開始。この日贈られたキャップは約31,500個にのぼり、約36人分のポリオワクチンに変わります。